

八王子の強みを活かした食品ロスの削減 －タベスケ×学生参画を通じた食への意識改革－

Reducing Food Waste by Leveraging Hachioji's Strengths
-Raising awareness of food through student participation × Tabesuke -

グループ名：いただきカンパニー

石川直人，小川美樹，田崎香乃，川下和翔，宮本温，光澤麻莉子，

佐々木勝弘，桜井伸之，太田雪音

指導教員 中山雅司

創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

八王子市の強みとして、①ごみの少ない「環境都市」であること、②9万人の学生を誇る学園都市であることに着目した。これらの強みを活かし、持続的に食品ロスの削減を達成していくため、学生主体の「Tabesuke Student Club」の設立・運営を提案する。

キーワード：食品ロス，タベスケ，啓発，学生の意識向上，SDGs

1. はじめに

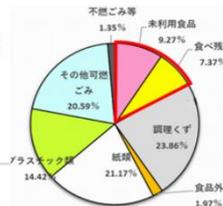
食品ロス問題は、八王子市が掲げる「八王子市未来デザイン 2040」の項目である「地球にやさしい循環型社会の形成」を目指す上で取り組むべき重要な課題である。八王子市は毎年ごみゼロ通信などの啓蒙活動やフードシェアリングなどの活動を行い、食品ロス削減に取り組んでいる。しかし、食品ロスの排出量は横ばいに推移しており、特に家庭から出る食品ロスは増加している。そこで、私たちは八王子市の取り組みを更に加速させ、更なる食品ロスの削減を実現するため、食品ロス削減ツール「タベスケ Hachioji」（以下、タベスケ）に着目した学生主体の施策を提案する。

2. 現状分析

(1) 八王子市の食品ロス

八王子市における食品ロス排出量は、図1より2017年度から2019年度にかけて年々増加している。また、同期間において、家庭から出る食品ロスは事業から出る食品ロスの2倍以上排出されている（八王子市2020）。加えて、2022年度の家庭から出る食品ロスのうち、約55%を未利用食品が占めていることが分かる（八王子市2023）。

図1 食品ロスの量 図2 家庭系食品ロスの割合
(出典：八王子市) (出典：八王子市)



(2) 八王子市が取り組む「タベスケ」について

タベスケとは、誰もが無料利用できる自治体主導のフードシェアリングサービスであり、事業者が出品した賞味期限の近い商品をユーザーが低価格で購入できる仕組みである。八王子市では、令和4年から都内初の取り組みとして導入した。タベスケを導入してから約2年間で約550kgの食品ロスが削減され、その効果は大きい(タウンニュース2024)。

しかし、八王子市職員へのインタビューによると、タベスケの認知度は市民全体で約4割にとどまり、70代以上が56%に対して、10代の認知率は19%と最も低く、若年層への浸透が十分ではないという現状がある。

(3) 私たちが焦点を当てる課題

以上のことから、八王子市が取り組むにあたっての課題を2点特定した。

①家庭から出る未利用食品が多いこと。図1、2より、八王子市では家庭系食品ロスの割合が事業系食品ロスよりも多く、その家庭系食品ロスのうち、半分以上が未利用食品によるものであった。つまり、更なる食品ロス削減のためには、家庭系食品ロスのうち、未利用食品のロスを削減しなければいけない。

②若年層の協力を十分に得られていないこと。タベスケは、本来であれば捨てられるはずである食品を安価でより多くの人々に届ける魅力的なサービスではあるものの、その良さは十分に認知されているとは言えず、特に若者への周知が不足している。八王子市とタベスケ運用会社G-Placeへのインタビューを行い、「自治体による広報活動が若者に行き届

いていない」という課題に対し、自治体は広報を苦手としているため、有効的な打開策を見いだせていないとの回答を得た。また、学生に着目する理由として、①若者の認知度の低さゆえに大きな改善余地があること、②学生の多くが日常的に食費の節制を強いられているということがある。つまり、タベスケの学生間の認知度向上によって、食品ロス削減と学生の双方にとってプラスな相互作用が見込まれる。

以上より、タベスケの普及と、食品ロス削減を目的とする学生主体のインターカレッジを新たに創設し、以下の短・中・長期的視座ごとの施策による持続可能な解決策の提案を行う。

3. 提案

私たちは「Tabesuke Student Club の設立と学生アンバサダーの募集」を提案する。

「Tabesuke Student Club」とは、八王子市の大学横断型のインカレ活動として、各大学から有志で学生アンバサダーを募り、タベスケの普及や食品ロス削減に対する学生の意識啓発を目的に活動する団体である。短期間で食品ロスに繋がられる施策に加え、根本的な解決を目指して中長期間での教育の場も提供していくことで「持続的な問題解決」を図る。

①短期：「出張タベスケ」の実施

出張タベスケとは、学生への認知度・利用率向上を目的に、市内の大学敷地内で、市内の農家からの規格外野菜やタベスケ協力店からの出品商品を集め、低価格で販売するというものである。学内でタベスケを疑似体験できる環境を提供することにより、学生のタベスケを利用するまでのハードルを下げることができ、認知度や利用率の向上が期待できる。

②中期：学生主体の広報活動

学生アンバサダーを中心とした SNS などを用いた広報活動を通じて、自治体による広報が届きにくい学生層にタベスケの認知を広げることができる。また、大学のネットワークを持つ学生が広報活動を行うことにより、情報の拡散力が高まり、より多くの新規ユーザー獲得に繋がる。さらに、タベスケの加盟店に対する SNS 上での宣伝を強化することで加盟店舗数の増加も期待できる。このように、学生による活発な広報活動を行うことで、新規ユーザーや加盟店舗の増加の好循環を創り出す。

③長期：食品ロス削減への教育活動の実施

市内の大学生を対象に食品ロスに対する教育や行動変革を目的とした大学でのイベントを開催する。具体的には、市内の食品ロス削減に取り組んでいる市職員や事業者、農家の方々を招き、エコレシピ料理教室という実践的なワークショップを行う。食品

ロス問題への理解を深め、料理教室を通じた食材を無駄なく使う調理法などを学ぶ。このような「知恵」を共有する体験型イベントの開催により、学生の意識啓発を促し、家庭や学校などにおける自主的な食品ロスの削減を促進し根本的な意識改革を促していく。

このような短・中・長期的な施策を通じ、学生主体の抜本的な八王子市の食品ロス削減に貢献する。

4. 提案によってもたらされる効果

(1) 食品ロスの削減

タベスケの利用者が増えることで、事業や家庭から出る食品ロスが削減し、より環境に優しい八王子市を実現できる。

(2) 地域経済の活性化

加盟店を巻き込んだプロモーションにより、地域の小売業が活性化し、地元経済の循環を促進する。また、SNS での紹介を通じて協賛店の新規顧客の獲得も期待できる。

(3) 八王子市民の意識向上

エコレシピ料理教室などの教育活動により、学生の食品ロスへの理解を深め、環境に配慮する意識が向上する。学園都市である八王子市において、学生の意識変革を地域全体へと広げ、市民全体の行動変容を促進する波及効果が期待される。

5. おわりに

世界では今この瞬間にも、十分な食事にアクセスできず苦しむ人々が多く存在する中、まだ食べられるはずの食品が廃棄されている。2030 年までの SDGs 目標達成のためには、自治体や市民など様々なアクターが行動を起こすことが求められる。食品ロスという問題に真摯に向き合い、持続可能な開発目標の達成のために八王子市から積極的に発信していくことを期待する。

【参考文献】

八王子市(2020). ごみゼロ通信.

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/contents/kouhou/006/p025943_d/fil/201001gomizero.pdf

八王子市(2023). 食品ロスとは.

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/gomi/001/torikumi/shokuhinloss/p021164.html>

タウンニュース(2024年10月10日). 「商品捨てたくない」の思い.

<https://www.townnews.co.jp/0305/2024/10/10/754504.html>